

高校三年

学年テーマ「自立を求めて・進路を決める」

中 村 明 彦・田 中 裕 巳・原 英 俊
福 谷 敏・鈴 木 克 彦・横 地 武

1. 学年テーマについて

(1)ねらい

「自分の人生を選択する力」の真価、達成度が最終学年として試される。自分の人生のできるだけ長期的な目標に向かって計画性のある日常の家庭・学校生活をおくり、自分の就こうとしている職業をよく理解し社会的意義を考える。

(2)総合人間科としてめざす子供像

“学習の遅れかちな生徒”を広義にとらえれば、「自分の人生について長期的な目標あるいは短期的な目標さえない生徒」、したがって「計画性のある日常生活」を家庭でも学校でも送ることのできない生徒は、教科の学習でもつまつきがあったり、基礎的能力を身につけていない場合（狭義での“学習の遅れかちな生徒”）が多い。この点の指導は、高校3年生の段階ではもはや極めて難しいが、明確な進路選択意識の喚起によって、「計画性のある日常生活」を送れることが出来るような指導を目指したい。そして、「明確な進路選択意識」が狭義の“学習の遅れ”の回復の必要要件をも気づかせるはずである。

2. 生徒の学習方法と学習計画・実態

(1)卒業研究『私の進路』

行来自分が就こうとしている職業について以下の項目でレポートする。

- ①職業選択の動機・理由（自分史の中で）
- ②職務内容（資格・免許・権限など）
- ③社会的意義
- ④自己の性格・能力・特技などとの関わり
- ⑤当面の自分の目標・計画

2学期はじめに提出させ、2学期は発表にあてる。

(2)進路指導の一環として

①大学・短大・専門学校・就職調査

②大学・短大・専門学校・職場の訪問

③先輩・職業人の話

体験談、生きがい、働きがいについて

(3)生徒の実態

「進路について」のアンケート結果からの抜粋。
・質問『8つの生活スタイルのうち、共感できるものがあれば3つまで選びなさい』

	男子	女子	合計
A. 社会のために役立ちたい。	20	27	47
B. 社会的に偉くなりたい。	5	5	10
C. 自分のことは考えず、企業の発展のためにつくしたい。	1	2	3
D. 経済的に豊かな生活を送りたい。	29	44	73
E. 楽しい生活をしたたい。	46	72	118
F. 自分の能力をためす生き方をしたい。	30	53	83
G. 別にこれという目的もなくのんきにやっていきたい。	7	12	19
H. 世の中に背を向けても自分なりに生きたい。	8	8	16

以上の数値は、3つ選ばれたものの単純合計ですが男女とも1位が“楽しい生活をしたたい”2位が“自分の能力をためす生き方”3位が“経済的に豊かな生活”でした。“楽しい生活・・・”は88%の生徒に支持されています。これは“楽しさ”を個人レベルに終わらせず、職業、仕事の上での楽しさ、家庭での楽しさ、地域での楽しさを追求する姿勢としてとらえる必要があります。

また、“別にこれという目的もなくのんきにやって

いきたい”という答えは19名 (14%) もあり、生きる目標が見えない世代の片鱗かと思われる。

・質問『現在のあなたの進路決定、職業選択について、何が重要な要因となっていますか。』

	男子	女子	合計
ア. その職業の社会的意義	26%	22%	24%
イ. その職業の収入の高さ	36%	16%	24%
ウ. 自分の能力・学力との関係	42%	46%	45%
エ. 自分の個性・性格との関係	62%	65%	64%
オ. 自分の興味・関心との関係	84%	77%	80%
カ. 親の意見	14%	16%	15%
キ. 身の回りにいる人の影響	18%	14%	15%
ク. テレビや映画の影響	24%	10%	15%
ケ. 仕事が楽しそう	36%	21%	27%
コ. その他	8%	1%	4%

以上の結果から生徒たちの進路選択の理由の大半は職業そのものの [収入の高さ] や [社会的意義] からではなく、あくまでも、自分の [興味・関心] [個性・性格] [能力・学力] との関係であることがわかる。また、[自分の能力・学力] をどのようにとらえているか、現状肯定的 (今の能力を精一杯とみるか) なのか自己改革的 (目標に向かって努力する) なのか、が主体的動機の真の意味を明らかにしそうである。

(4)一学期指導経過

第1回 (4/15)

- 総合人間科の取り組みについてのガイダンス
- 進路と職業についてのアンケート調査

第2回 (5/6)

- 担任団による進路別6分科会の発足
- 各分科会での進路別説明会

第3回 (5/20)

- 先輩による講演
 - 題：「進路・職業選択についての体験談」
 - ・職業選択動機
 - ・職業観
 - ・仕事の内容
 - ・生きがい
- 講演者3名の紹介

- ・29回生 近畿日本ツーリスト勤務
- ・33回生 パソコンソフト会社勤務
- ・41回生 病院勤務、看護学校在学中
- 講演を聞いての感想をまとめる。

第4回 (6/3)

- 各自の進路希望に即したフィールドワーク
 - ・大学、短大、専門学校、職場の見学、訪問調査を行う。

第5回 (6/17)

- 訪問内容の発表会
 - ・各分科会ごとに展開
 - ・発表時間は、5分程度。質疑応答

第6回 (7/1)

- 訪問時の感想文を書く [400字以上]
- 卒業研究 各自の作業
 - ・自分史の下書きおよび資料集め

第7回 (7/15)

- 卒業研究 自分史のまとめ
- 2学期発表に向けての説明
 - ・担任団による、職業選択の動向の発表

3. 学年チームティーチングについて

担任団6人による分掌、教科、個性を生かしたチームワーク、チームティーチング

6人の教官の専門性を生かした分科会の発足とその分科会でフィールドワークについて事前事後指導。

[学部教官との協力について]

- ・進路についてのアンケート結果の検討会を行い、生徒のとらえ方や進路、職業に対しての現実的な知識を育てる方策を検討する。
- ・先輩の講演やフィールドワークの事後発表会に参加していただき、講評及び検討会を持つ。

4. 実践

(1)分科会について——系統別に進路を考える。

第1分科会 (人文科系統) : 指導者 横地 武
文学部、外国語学部、教育学部 (教員養成以外)、人間科学部、外国語の専門学校 30名

第2分科会 (社会科学系統) : 指導者 田中裕巳

法学部、経済学部、経営学部、商学部、社会学部、
国際学部、社会福祉学部、ビジネスや福祉系専門学
校 22名

第3分科会（理学・工学系統）：指導者 原 英俊
理学部、工学部、情報科学部、鉱山学部、繊維学
部、工学系の専門学校 17名

第4分科会（農学・医薬看護系）：指導者 福谷 敏
農学部、水産学部、医学部、獣医学部、薬学部、看
護学部、衛生学部、医療技術短大、医療系の専門学
校 28名

第5分科会（教員養成・家政・就職系統）：指導者
鈴木克彦
教育学部（教員養成）、家政学部、公務員、民間企
業への就職希望者 24名

第6分科会（芸術系統・体育系統）：指導者 中村明
彦
芸術学部、音楽学部、美術学部、体育学部、デザイ
ン・ミュージック、美容専門学校 12名

(2) フィールドワークでの訪問先例

第1分科会……南山大学、淑徳短大、愛知大学、中京
大学、朝日新聞社、ビジネス専門学校

第2分科会……名城大、愛知学院大、千種児童館、日
本福祉大、名古屋市立大、観光専門学校

第3分科会……名大、名工大、県食品工業技術セン
ター、名古屋市科学館、名城大

第4分科会……名工大、愛大、看護短大、名城大、み
すほ短大、医療技術短大

第5分科会……千種消防署、名女大、市立栄養専門学
校、国際センター、愛教育大、松阪屋

第6分科会……県芸大、NHK、名古屋TV、名古屋ヒ
ジュアルアーツ、美容専門学校

5. 今後の課題

(1) 1学期の成果と反省

フィールドワークの感想のほとんどが、「訪問して
良かった」ということで締括っている。肯定的にしろ
否定的にしろ、進路に対して現実的な体験をして少し
は、各自の進路の意識を高めたと思われる。

ただし、時期が土曜日であったため、大学などが休
みと重なり不便な面もあった。来年以降は平日の訪問
で、遠足の時に行う方法も考えられる。

(2) 夏休みの取り組み

卒業研究——自分史の作成——

「今日までとんな人生だったか振り返り、特に節目
となる出来事を中心に文章にしていく、思い出せる印
象的なことを、項目立てて書く。この先どう生きてい
くか、方向づけた何かが過去にあったとしたら、それ
を発見し、今の気持ちと一致するか考えてみるのもよ
い。何をしようとして、これからどうしようというの
か自分の軌跡を残す。」

- ・夏休みの中に原稿を書き上げることを原則とする
原稿用紙は、指定のもの。
- ・提出枚数は5枚（最低4枚）

(3) 2学期の予定

(9/16) 原稿締め切り

(9/30) 発表の要点をまとめる

(10/7以降) 卒業研究発表スピーチ開始

(文責 中村明彦)

1 学期指導過程

月 日	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
第1回	オリエンテーション 総合人間科の目的と内容					
4月15日	アンケート 生活意識の 現状調査	方法説明 (食物調べ) 意識調査 (学校生活 と学習)	方法説明 (7種類の新教 材について)	附属中学卒業論文 報告会 (研究の動機・ 過程・感想) 生徒代表7人	学年担任団から 問題提起	アンケート (進路と職業 について)
第2回 5月6日	憲法講演会 について 興味を持った人 物・事柄につ いて調査 グループ討論	4/16~22 食物調べ実施 ↓ 1週間の食物調 査結果のまとめ 疑問点の整理 グループごとに 発表	映画鑑賞 「二十四の瞳」 感想文	林間学校における 総合人間科にむけ での準備 ・研究係選出 ・クラス討論の テーマ検討 ↓ アンケート実施 (宗教・学習編)	教官チームによる 講義(2人1組) ①国際理解・文化 ②平和・環境 ③人権・産業 3クラスを ローテーション	担任団による 進路別説明会 (6グループ) アンケート調査 について 分析・討論
第3回 5月20日	担任団より 問題提起 発表・討議 (4回完結) 戦争中の中学生 木を植えた男 映画「学校」	食物調査から 各自疑問点吟味 ↓ 追求テーマ決定 テーマ発表と 意見交換 ↓ グループ分け	広島 フィールドワーク グループづくり 旅行オリエンテーション	自己PR原稿作成 (社会的興味関心 理想とする人生) *5/30~6/1 林間学校にて ・クラス討論 ・担任団6人より 問題提起講義	同 上	先輩による講義 (3人) ・職業選択動機 ・職業観 ・仕事の内容 ・生きがい
第4回 6月3日	同 上	指導教官別 学習計画作成 (見学場所・実 験方法・調査活 動・聞き取り調 査先など) 新聞切り抜きの 開始	パソコン学習 キーボード リテラシー 完全習得学習	個人研究テーマ の検討 ↓ クラスでの発表 (テーマ・動機・ 研究方法・フィ ールドワーク候補 地など) 研究テーマ提出	同 上	大学・短大・ 専門学校・職場 訪問
第5回 6月17日	同 上	事前学習 参考文献・ 資料を集約	現代史学習 岩波新書 「昭和史」 世界恐慌と 農村の惨状	個人研究テーマ別 指導教官決定 ↓ グループ別討議 (7グループ) テーマと研究方法 の再検討 (より具体的に)	教育学部講義 (植田先生) 学ぶことを学ぶ	訪問の発表会 (1分55分 6グループ)
第6回 7月1日	同 上	夏休みの 活動計画	読書と作文 暮らしの手帳社 「戦争中の 暮らしの記録」	指導教官別 個人研究 夏休み計画書作成 (参考図書のリ ストアップ、フィ ールドワーク実施 計画案など)	研究テーマ検討 グループテーマ 個人テーマ 教官グループから の指導・助言	卒業研究 テーマ内容につ いての説明検討
第7回 7月15日	一学期のまとめ と夏休みの宿題	夏休みの 活動計画 中間発表	インターネット とは何か 活動計画づくり 課題設定	教育学部講義 (新海先生) フィールドワーク にむけて	同 上	卒業研究 作業開始 (自分史作成)

(中3は週2時間の実施)